

[4] 戦後復興～経済成長期 昭和20(1945)年～昭和46(1971)年

一坪図書館から出発 市民の応援で復興 資料も活動も充実

昭和20(1945)年7月、米軍による空襲で堺市立図書館は主な建物を焼失しましたが、書庫は事前の対策により焼けずに残りました。8月から書庫の前の一坪のバラックで貸出を始め、昭和22(1947)年5月巡回文庫を始めました。

市民有志により図書館復興後援会を設立、市民の寄付で図書館建設がすすめられ、第1期工事が完成。昭和24(1949)年7月館内閲覧が再開されました。

鳳公民館、耳原隣保館、鳳新在家公民館、湊出張所にも図書置き、分館・地域図書館のもととなりました。

その後、夜9時までの開館、閲覧室の増設、児童閲覧室の改善などが進められました。

昭和27(1952)年5月に復興第2期工事が完了し、毎月定例のレコードコンサート・堺歴史展の開催・歴史資料の整理展示・府下初の相談事務・「本を読む母親運動」など、他市に先がけ発展しました。

昭和42(1967)年バスを改造した自動車文庫「ひまわり号」が誕生、市内68ヶ所を巡回しました。

昭和43(1968)年大仙町に中央館を建設することが決まり、昭和46(1971)年7月現在の堺市立中央図書館が開館しました。宿院の図書館は、府下最初の点字図書館となりました。

年表

昭和20(1945)年	7月 戦災により書庫と宿直室を除いて全館焼失	昭和33(1958)年	4月 堺読書友の会結成、自転車文庫配本開始(自転車1台 会員約400人対象)			
8月 残存書庫で館外貸出再開	昭和22(1947)年	11月 堺ライオンズクラブより図書116冊の寄贈	昭和36(1961)年	4月 府下初の相談事務		
昭和24(1949)年	5月 自転車による巡回文庫(児童文庫・移動文庫・母親文庫・家庭文庫)が始まる	11月 「堺古絵図展」開催	昭和37(1962)年	4月 堺市立登美丘分館設置(登美丘町合併により登美丘町立図書館を引き継ぐ)		
10月 市民有志によって図書館復興後援会が設立され館舎再築資金の募金はじまる	昭和28(1953)年	11月 「堺の歴史展」開催	昭和38(1963)年	5月 「本を読む母親運動」展開		
昭和24(1949)年	4月 戦災復旧第1期工事着工	5月 主として学校PTAを対象とする軽四輪車による貸出を開始	昭和39(1964)年	1月 幼稚園・小学校PTAを対象に家庭文庫開設		
4月 鳳公民館・耳原隣保館・鳳新在家公民館・湊出張所図書を置く。	4月 鳳公民館・耳原隣保館・鳳新在家公民館・湊出張所図書を置く。	昭和40年(1965)年	10月 小型移動文庫(軽四輪自動車)巡回開始	昭和41(1966)年	4月 「堺研究」第1号発行(毎年発行)	
7月 復興第1期工事館舎の一部竣工。館内閲覧再開	昭和25(1950)年	8月 中百舌島田地集会所で1日図書館	昭和42(1967)年	1月 自動車文庫「ひまわり号」(バス改造)68ヶ所巡回	昭和43(1968)年	10月 新館建設決定
昭和25(1950)年	5月 館外貸出開始	昭和27(1952)年	1月 復興第2期工事着工(5月 新館増築落成式)	昭和46(1971)年	5月 16日閉館、18日移転準備開始	7月 20日新館開館
7月 夜9時まで開館、閲覧席12席を44席へ増設、児童室改造	5月 大阪アメリカ文化センター堺分館となる	7月 移動図書館開設(読書団体への貸出)・童話会開催	11月 レコード・コンサート開催(毎月定例)			
9月 ジェーン台風により大きな被害を受ける	昭和30(1955)年	2月 幻灯「堺のあゆみ」				

一坪図書館からの戦後復興

1. 焼けあとの1坪図書館

昭和20(1945)年8月より残存書庫で館外貸出を再開しました。

「堺市立図書館は戦災で建物の75%を焼失したが、約4万冊の図書を蔵する鉄筋造りの書庫が宿院町にボツンと一棟焼け残った。本館・閲覧室を失ったため、戦後になっても正常な運営ができず、1・2年のあいだ、書庫を仮事務所として館外閲覧のみを行った。」(堺市史より)

「焼け残った書庫の渡り廊下の前に一坪程度のバラックが建てられ机一つ置いて個人貸出しを中心に奉仕が始められることになった。」(60年のあゆみより)

「当時書庫には電灯が無く、戦災を受けたまま窓のほとんどが開かず、暗闇の中で懐中電灯だけをたよりに本を探しました。又停電の打ち続く中では懐中電灯も貴重品でしたので、時には手さぐりということもありました。」

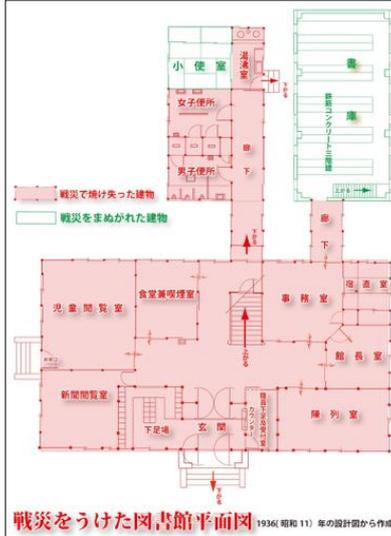
(当時職員玉乃井健三氏談)



戦災にあった図書館



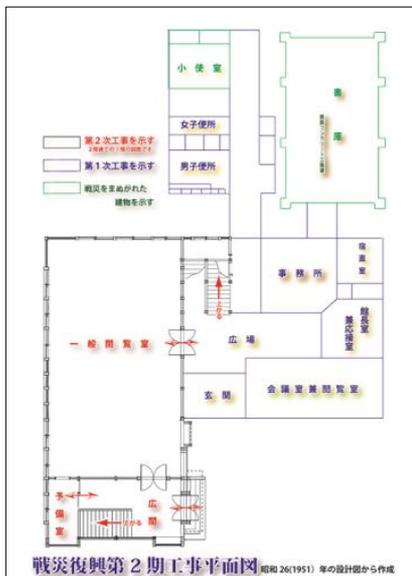
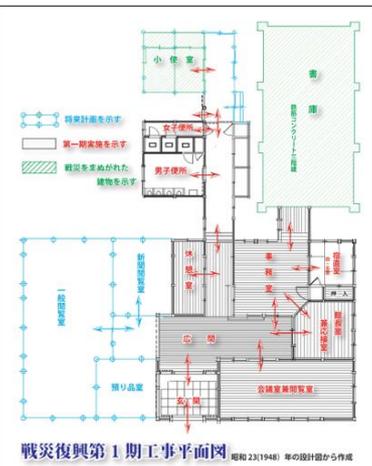
焼け残った書庫



2. 市民の寄付で図書館建設

- ◎昭和22(1947)年10月 市民有志によって図書館復興後援会が設立され、館舎再築資金の募金を開始
- 通常会員 100円を納める個人・500円を納める団体
特別会員 1000円を納める個人・5000円を納める団体の事業
1. 図書館の復興並びにその設備及び内容の充実
 2. 文化的社会事業
 3. 図書の利用貸出、巡回文庫を行う
 4. 地域的に分館を設置、市民読書の便宜を図る
 5. 図書目録、会報等の発行

- ◎昭和24(1949)年4月 戦災復興第1期工事着工
木造平家建1棟 建坪37坪(事務所、閲覧室、廊下)
付属 廊下及び便所 建坪10坪(小使室(臨時応急建物))
- 7月 復興第1期工事が竣工。館内閲覧再開
- ◎昭和25(1950)年5月 館外貸出開始。
7月 夜9時まで開館、閲覧席12席を44席にふやす
児童閲覧室を広く明るくする
- 9月3日 ジェーン台風により大きな被害 屋根瓦及び波型鉄板・天井テックス・硝子・板塀・その他被害額 58,000円(ジェーン台風災害計より)
- ◎昭和27(1952)年1月 復興第2期工事着工、5月落成
本館木造2階建1棟(1階48坪)(閲覧室2、玄関階段、館長室、物置)(総工費2,634,460円)



第2期工事中の図書館



第2期工事竣工後の図書館



3、市民の要望に応え内容も充実

- ◎昭和21(1946)年 郷土史話会結成
- ◎昭和22(1947)年 巡回文庫開始
- ◎昭和24(1949)年 公民館に図書を置く
- ◎昭和25(1950)年 館外貸出開始
7月 夜9時まで開館、閲覧席12席を44席に、児童閲覧室を大きく改善 「堺市民新聞」昭和25年7月号
- ◎昭和27(1952)年 貸出の保証人制廃止
5月 大阪アメリカ文化センター堺分館となる
11月 レコード・コンサート開催(毎月定例)
堺美術教室開催(毎週日曜日2回)
- ◎昭和36(1961)年4月6日より府下初の相談事務
- ◎昭和38(1963)年5月 本を読む母親運動



昭和25(1950)年図書館改善のポイント

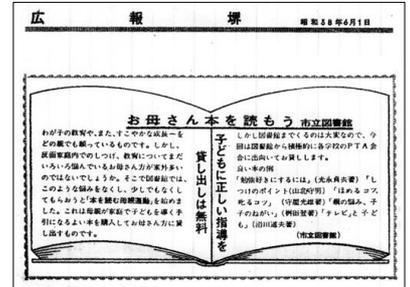
(「堺市民新聞」より)

- (1)夜間開館は午後9時まで。
- (2)閲覧席は12席 → 44席。
(椅子テーブルを増し館長室の一部をも開放)
- (3)うす暗くテーブルもなかった児童閲覧室・土曜日のみ → 明るい玄関脇に30席・毎日の閲覧。
- (4)廊下に新刊書の書架新設。
- (5)学校巡回文庫を設ける。
- (6)文化団体に対し読書指導。
市民の書庫見学等も計画。

宿院の図書館は、先人が書庫の壁に防護壁を塗り、水をかけて戦災から守りました。書庫とともに、隣にあった宿直室に残りました。

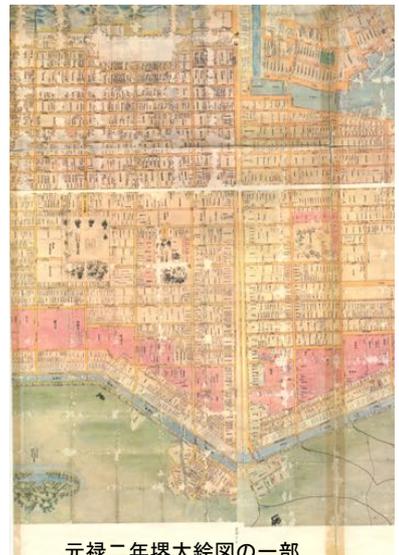
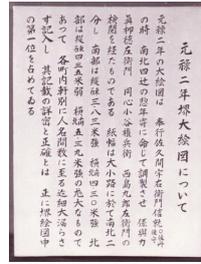
市民の要望を聞き、夜の9時まで開館していました。私は若く元気でしたので、山之口商店街の浪速亭で食事という条件で、毎日喜んで運搬を引き受けていました。

事務所では、冬にはだるまストーブを使っていたが、12月で石炭がなくなり、建築現場で廃材を集めてくるのも若い者の仕事でした。(元中央図書館長高田尚文氏・談)



郷土資料の充実(堺の歴史展など)

- 昭和15(1940)年 9月 保存委託図書5件(元禄堺大絵図など)
- 昭和21(1946)年 11月 郷土史話会第1回
- 昭和22(1947)年 5月 郷土史話会第3回
- 昭和30(1955)年 2月 「堺のあゆみ」幻灯会
- 昭和30(1955)年 2月 与謝野晶子研究会
- 昭和35(1960)年 1月 堺市史資料(未刊分)調査
研究委託・複製委託
- 昭和35(1960)年 2月 お蔵の「堺市史」資料調査
- 昭和36(1961)年 11月 「堺の歴史展」
(元禄の大絵図や写真資料)
- 昭和37(1962)年 11月 堺の歴史展
- 昭和41(1966)年 4月 「堺研究」第1号発行(毎年)
- 昭和41(1966)年 7月 郷土資料整理をする



元禄二年堺大絵図の一部 (前田書店出版部「元禄二年堺大絵図複製版」より)

高度経済成長期、あちこちの市が図書館を造ったり建て替えたりしましたが、堺の図書館は抜かしていません。宿院の時代、部屋は無かったが、中田さんが担当して郷土資料コーナーがありました。新館で郷土資料室をつくり、安西文庫もできました。河川慧海の資料集めなどに力を入れていきました。空襲から貴重な資料を守ったことが大きく、堺市、オンリーワンの資料が残りました。他の自治体では郷土資料自体が珍しかったのです。
(元中央図書館長高田尚文氏・談)



元禄二年堺大絵図を見る市民



図書館の書庫にある「堺市史史料」



堺研究第1号 毎年発行しています

巡回図書館(自転車文庫から自動車文庫へ)

自転車時代

昭和22年(1947)年5月
巡回文庫(児童文庫・移動文庫・母親文庫・家庭文庫)始まる
昭和26(1951)年7月
移動文庫、学校単位の文庫活動開始
昭和33(1958)年3月
読書友の会結成 自転車文庫配本開始(自転車一台 会員約400人対象)

軽四輪時代

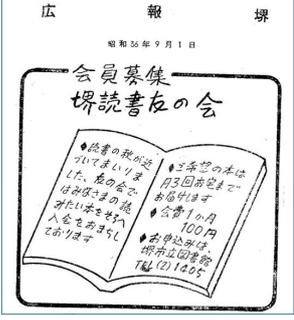
昭和38(1963)年5月
学校PTAを対象とする軽四輪車による貸し出しを開始
昭和39(1964)年
幼稚園・小学校PTAを対象に家庭文庫開始

自動車(バス)時代

図書館から3km以上の地域に対して貸し出し
3世帯以上のグループをつくり、近くの駐車場で申し込み、1世帯3冊まで
団体1ヶ月間10人以上のグループで申し込み人数に応じた冊数
昭和42(1967)年8月3日自動車文庫巡回開始、68カ所
ひまわり号(トヨタRK170改装) 1000冊積載 同年の登録者3291人・貸し出し27,639冊 15団体・貸出1,253冊(自動車文庫開設に伴い家庭文庫中止)



日	時間	区間	乗車人数	貸出冊数
6月6日(日)	13:00	東区 大塚町	25人	25冊
7日(月)	13:30	東区 大塚町	25人	25冊
8日(火)	12:30	東区 大塚町	25人	25冊
9日(水)	12:30	東区 大塚町	25人	25冊
11日(木)	12:30	東区 大塚町	25人	25冊
12日(金)	12:30	東区 大塚町	25人	25冊



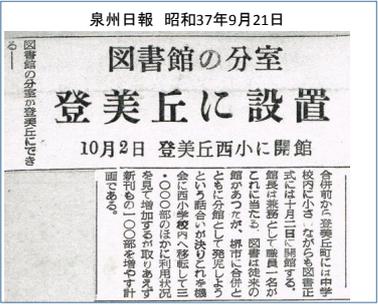
1965年(昭和40年)6月5日 朝日新聞より
周辺部にもひろげる 堺図書館母親の読書運動
堺市立図書館では本を読む母親運動を続けて二年目を迎えるが、好評なので、さらに市周辺部のお母さんにも範囲を広げていく。母親に読書の刺激を与えて、家庭教育や母親としての生き方を学んでもらうのがねらい。

1965年(昭和40年)6月5日 読売新聞より
今月から農村巡回 本を読む母親運動貸し出し一万冊超す
子供に勉強を強制する前にまずお母さんに本を読んでもらおうと、幼稚園や小学校のPTAで始めたものでPTA会合、授業参観を利用して家庭教育の重要性や読書の必要をPR、教育関係の本を並べて、自由に貸し出すやり方始めた。



地域に分館を(公民館から分館へ)

昭和24(1949)年4月
鳳公民館・耳原隣保館・鳳新在家公民館・湊出張所(分室)に図書を置く
昭和37(1962)年4月
登美丘町との合併により登美丘町立図書館を堺市図書館分館とする
昭和41(1966)年6月
中百舌鳥団地集会所で第3土曜日2~3時図書館から出張貸出始まる
昭和42(1967)年3月
分館移転(登美丘出張所2階)



新館建設準備・大仙公園に中央館を実現

- ◎昭和43(1968)年10月 新館建設決定(大阪府立大学大仙中町学舎用地内)
- ◎昭和44(1969)年
 - 1月 基本構想打合せ
 - 4月 新館基本設計打合せ
 - 基本設計(大阪市立大学栗原研究室)
 - 実施設計(池田宮彦設計事務所)
- ◎昭和45(1970)年
 - 2月 図書館建設用地へ杭打ち
 - 3月 新館建設工事着工
 - 4月 地鎮祭
- ◎昭和46(1971)年
 - 1月 新館テレビ障害について現地調査
 - 5月16日 閉館
 - 5月18日 移転準備開始
 - 7月17日 新館開館式
 - 7月20日 新館開館
- ◎昭和47(1972)年5月
旧館、府下初の点字図書館として再開館

「新館開館に向けて、69年から職員採用が始まりました。私は1970年に就職で男2人女5人。初めて司書としての採用でした。長く図書館を閉めて、引っ越し準備をしました。古い書庫のほりこりだらけ、においのする本1冊毎にハタキをかけ、シオリのひももおきました。手ぬぐいで口をふさいでの作業です。ていねいに箱に入れトラックに積み込み、新しい新館の書庫に運びました。日通のトラックでしたが、運転以外は職員の仕事です。一カ月ぐらいかかり手がガサガサに荒れました。私は、建ち上がって行く新館の様子を撮るのが仕事でした。元の府立大学の実習農場だったので牛舎、鶏舎もありました。開館当日は、数百人の市民とともに各市の教育長や市長などの来賓や視察の人達が並び、すごかったです。」
(元中央図書館長高田尚文氏・談)

